

我孫子市では平成11年、補助金をいったんすべて白紙に戻し、外部委員による検討協議会で一つ一つ必要性を評価し、新たに0から積み上げてきました。補助項目の一元化や、繰越金も考慮し、補助率を50%以下とするなど、補助金は「自立に向けての支援」と考え3年ごとに見直しをおこなっています。市民活動支援のための公募型補助金も創設し、団体のやる気を重視し、受ける側にも説明責任を求めています。その結果、新たな団体にもチャンスができたことと市民には好評とのこと。団体が自立することで、補助金を受ける側から事業を受託する側へと成長することも期待されます。

さらに財政課と市民活動支援課の2課で事業を進めていることが大きな特徴で、財政の透明性を高め市民参加をすすめる牽引力になっているようです。しかしまだ市が事務局を担っている団体もあり順次見直していくよう努力しているともいっていました。しがらみのない福島市長だからできたともいえますが、千葉市でできないはずはありません。

学童クラブ 風の子シュワッチ訪問



保護者や地域の方々が立ち上げた「NPO法人学童保育の会・この指とまれ」が運営する「風の子シュワッチ」(稲毛区黒砂)を訪問しました。

市では学童保育(子どもルーム)を社会福祉協議会に委託して開設しています

が、4月1日現在131人の待機児童がおり、希望ルームに入れず学区外に通う児童や、60人以上の大規模なルームもあります。共働きがあたり前、ひとり親家庭も増えていて、学童保育に対する需要は年々増加しているにもかかわらず、十分対応できているとはいえません。

シュワッチは6年目を迎え、複数の小学校から41人の児童が利用しています。財政的に厳しい中でも正指導員1名にアルバイトや有償・無償のボランティアが協力してアットホームな心地よい居場所を子どもたちに保障しています。国基準を満たす質の高い運営で、市の子どもルームを補完する役割も果たしており、今後NPO等が実施する学童保育に対して市の支援を求めていきたいと思えます。(小西)

住みなれた地域で暮らし続けられるように

平成21~23年度の高齢者保健福祉推進計画策定にあたり千葉市では、高齢者や若年者、介護保険事業者などを対象にニーズ把握のアンケートをしています。日常生活では、認知症への不安、地震や災害時の避難が心配。高齢者施策では、一人暮らしの見守り支援に力を入れていくべきとの回答です。今後、一人暮らしや認知症の高齢者が増加し、地域での見守り体制づくりが重要な課題となります。

県では市町村向けに「災害時要援護者避難支援の手引き」を策定中で、障害者団体や外国人など災害弱者へのヒアリングをおこなっています。市町村は「避難支援プランの全体計画」を今年中に作る予定ですが、サポートを必要とする人の把握は大変難しく、手上げ方式・個別訪問(同意方式)など民生委員や自治会に頼る部分が多く、あの手この手を借りて構築していかなければなりません。

お知らせ

「夢はぐくむちば子どもプラン」  
どう進んでいますか? 行政説明会

日時 5月25日(月) 10時~12時  
場所 市民ネット中央区事務所(きぼーる前)  
託児あり(要予約)  
お問合せ TEL/FAX 223-7880

災害時要援護者対策についてのアンケートまとめ

返信総数(57)  
20代(1) 30代(2) 40代(4) 50代(4)  
60代(18) 70代(10) 80代(3)

- 非常時、近所に頼れる人はいますか?  
いる(38) [家族(16) 親戚(11) 友人(14) その他…ちばコープ(1) 仲間の会(1)]  
いない(18)
- 支援は必要ですか?  
①はい(14) いいえ(8)  
②どのような支援を望みますか?  
・地震で家が倒壊した場合の緊急避難対応  
・古い木造家屋の耐震補強の方法  
・力仕事  
・無事に生きているか確認  
・子育てサポート  
③必要でないという方の理由  
・現在はまだ年齢的・体力的に大丈夫(4)  
・自分で、家族で、できるだけ頑張る  
・お金のかかる支援は不要
- 地域の要支援者に協力できますか?  
できる(37) できない(13)

近所に頼れる人がいなくても自助努力で頑張っておられる現状が見えます。協力できるという意識の方が多いいのは頼もしいです。

市政についても多くのご意見が寄せられました。今後も皆様と一緒に検討していきたいと思えます。

アンケートにご協力ありがとうございました。

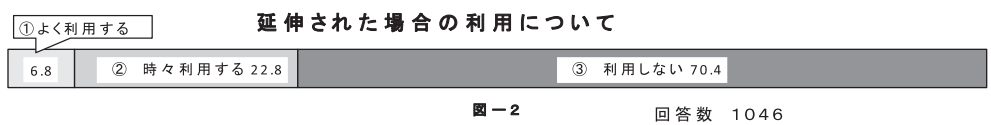
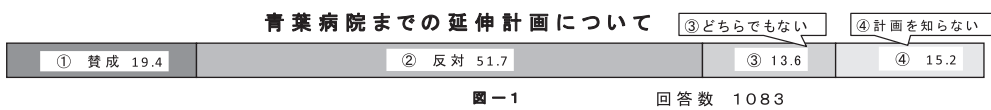
市民のための交通政策を! 市民ネット交通プロジェクトからの報告

昨年11月から本年3月にかけて市内6区で交通アンケートを実施し、1,138人からご意見をいただきました。ご協力ありがとうございました。

アンケートのねらいは、財政難のなか計画されている県庁前から青葉病院まで2kmのモノレール延伸について、市民の率直な意見を聞くことでした。

延伸計画について、反対は5割(図-1)。また現在モノレールを利用していない人は6割。延伸した場合、延伸部分を利用しない人は7割に達します(図-2)。このことは「延伸したら利用が増える」という市の主張とは相反しています。

延伸に176億円、年間維持費約4億円を投入するモノレールに対し、市民にとって身近なバス関連予算は、年間約4000万円というのが千葉市の交通政策の現状です。やがて到来する超高齢社会を見据え、モノレール延伸よりもバス交通を支援する交通政策に転換を図るべきです。



バス事業者を利用者の声を届けました...

中央区内を走る千葉中央バス(4/13)、小湊バス(4/17)、京成バス(4/22)を訪問させていただき、事務所で意見交換をおこないました。



要望の多かった最終バスの時間延長や、蘇我駅から大学病院ルートが増便、ルートの新設などは採算面でなかなか困難とのこと。低床バスは推進中。モノレールとの競合路線をどうするかは未定。不採算路線でも公共交通を支えるという意識でエリアネットワークを維持しているという話もありました。



JR千葉駅にわかりやすいルート図、各バス停や車内には路線図表示をとの要望には、「必要性を感じている、できるだけ検討していきたい」との回答でした。エコ定期券(通勤定期を利用した休日家族割引)については今後さらにPRしていくとのこと。

最後に定期的に市民の声を聞く場として懇話会を提案しました。

郵便はがき

料金受取人払郵便

千葉支店 承認 648

差出有効期限 平成22年10月31日まで (切手不要)

〒260-8790

千葉市中央区中央3-13-17

市民ネットワーク・中央 行

記事について、ご意見・その他何でもお書きください。

お名前 \_\_\_\_\_ TEL \_\_\_\_\_

ご住所 \_\_\_\_\_